

地元住民と連携した 多様な環境保全活動で地域の活性化

広島県： ^{みどり}水土里ワーク川尻 ^{かわじり}

○団体の活動目的と経緯は？

【目的】

地域の環境保全、施設維持管理を通じた地域活性化

【経緯】

平成 12 年に高齢化・後継者不足から農地の荒廃が進行していた。そこで有志によって、地域の活性化を目的とした、「ほ場整備」を呼びかけ、平成 22 年に排水路や水田との接続等環境に配慮したほ場整備が完成した。平成 19 年「農地・水・環境保全向上対策事業」を機に設立した当団体が地域の環境保全活動の一環として、排水路（赤城川）の維持管理を行っている。



生きもの調査

○環境保全施設と関連情報

【環境保全施設】水田魚道、全断面魚道、深場

【活用した事業等】県営経営体育成基盤整備事業

【保全対象生物】ドジョウ、タモロコ等

○どんな生態系保全の取組を実施？

1. 環境配慮施設の維持管理

- ①土砂あげ、ゴミさらい、草刈り、水流管理等
・平成 19 年に設置された施設の管理を継続して実施（年間約 90 日）

2. 生きもの調査・観察

- ①田んぼと水路
・生きものを採取、撮影や講義を実施
- ②ホタル鑑賞会実施
・平成 26 年度より地域住民とともにホタルの鑑賞会を開始

3. 地元小学校との交流

- ①出前授業
・学校田での昔ながらの農業に関する講義や体験
- ②水路の生きもの調査
・地区内の排水路にて 2 年生を対象として実施

4. その他

- ①花木、シバザクラ等の保護管理
・景観形成、農道や水路保全、生きものの保護のため、植物の植栽・維持管理を実施



水路の維持管理作業



田・水路の生きもの調査

○継続した活動でこんな効果が！！



出前授業の様子

■生きものの個体数と種数の増加

・赤城川排水路及びそれに接続する水田で、生きものの種数と個体数の増加を確認できているため、保全活動の効果が出ていると感じている。

■地域環境保全への啓発・関心・理解の向上

・様々な保全活動によって、大人から子供まで幅広く地域住民間での交流が図られ、地域環境保全への啓発・関心・理解の向上している。

○課題・苦労した点

■環境保全に対する知識不足

・生息数が減少した希少魚種「タモロコ」を赤城川排水路に復帰させたいと考えていたが、具体的な方法が分からなかった。

■生きものに配慮した水路作り

・排水路設置当初は、3面コンクリート張りの水路で、流れが急で草も洲もなく、生きものが生息することは出来なかった。

○工夫した点

■他団体からの情報提供で知識不足解消

・県内の土地改良区や同町内の自然観察園からアドバイスを受けて、保全等に関する知識や方法を学習した。

■水路作りの試行錯誤

・3面コンクリート張りの自然化について、小石や土のうで洲を造って草の生息を促し、流れを蛇行させて水流を緩やかにさせる等の工夫を実施した。

○活動の特徴！！

■様々な活動に挑戦

・施設の維持管理だけでなく、ホタルの鑑賞会や地元小学校での伝統農業の授業、生きもの調査を実施。さらには、景観形成としての植物の維持管理に至るまで幅広い活動を実施している。



○団体の概要は？

- ・平成19年度に設立され、活動エリアは広島県世羅町川尻地区(旧甲山町辺り)としている。
- ・任意団体であり、人数は58名。
- ・年間運営費は補助金が100%となっている。
- ・年間活動日数は、約90日である。

